

目指す学校像	「通ってよかった、原山中！」と生徒が思える学校
--------	-------------------------

重点目標	1 基礎学力の習得と充実 探究的な学習活動の推進 キャリア教育の充実 2 自己肯定感、自尊感情の高揚 全ての教育活動を通して行う非認知能力の育成 3 体力・運動能力の向上 健康教育・安全教育・食育の推進 4 コミュニティ・スクールの充実 地域人材・企業等の活用 学校H・Pの充実 5 研修履歴に基づく教職員研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<b>【学びの質の向上に関する取組】</b> <現状> ○全国学力・学習状況調査の質問紙調査や、市学習状況調査の国語・数学の結果とも全国、市平均と比べ高い。 ○手帳や計画表を用いた自立した学習者の育成を目指している。 <課題> ●自律的な学習については他に比べて肯定的な回答が低い傾向が見られる。 ●生徒の学力の二極化。 ●習得した基礎的な知識・技能を、教科横断的に活用する場面の設定。	・学びの自律化、個別最適化、探究化に向けた授業改善 「生徒が見通しをもって、主体的に学習に取り組むための指導の実践と工夫」 ①基礎学力の向上 ②探究的な学びの推進	①基礎学力の向上 ・生徒が手帳を活用し、見直しと振り返りの習慣をもたせる研究【自律化】 ・定期テスト時における、生徒の実態に応じた具体性のある計画の作成と実施の指導【個別最適化】 ・個による学習方法の選択【個別最適化】 ②探究的な学びの推進 ・教科横断的な視点を意識した探究的な学習活動の指導計画作成と授業の実践 ・STEAMS time の実践と振り返り	①学校評価項目12において、生徒・保護者による肯定的な回答が5%向上することができたか。 ②市学習状況調査の結果において、生徒のよい変化が見られたか。 ③スタディサブリのより効果的な活用方法について研究することができたか。	①「原山中では、生徒にわかりやすく、学ぶ喜びを味わえる授業がなされている。」については、生徒1p増、保護者2p増となった。 ②調査結果が出ていないため、正確な比較はできないが、教師の見取りにおいては、おおむねよい変化が見られている。 ③スタディサブリに関しては、毎月市平均よりもおおむね20～30p以上の稼働率であった。	B	生徒の学びの自律化については、発達段階に応じた手帳の種類や手帳の活用方法等について検討を行っている。また、振り返りの方法についても、ICTを用いたデジタルポートフォリオ等、検討を続けていく。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ICTや生成AIを必要な場面で効果的に活用できる能力は、これからの時代を生きる生徒にとって生活を便利に豊かにするものであるし、備えておくべきものでもある。しかし一方で、それを使用する際のリスクも併せて考えさせ、指導する必要がある。それは、学校だけに頼るのではなく、使用させるすべての大人の責任でもある。
2	<b>【子どもの発達や心のサポートに関する取組】</b> <現状> ○全国学力・学力状況調査の質問紙調査から、生徒の自尊意識、自己肯定感は全国、市平均と比べ高い。 <課題> ●教室外の場所での学習を希望する生徒が増えている。 ●それに伴う、場所、人の確保が困難。	・自己肯定感・自尊意識の醸成 ・個に応じた居場所の確保 ・生徒指導・教育相談体制の充実 ・迅速な情報共有と、他機関との連携	①生徒による学校・学年行事、委員会等の運営 ②学習室(SOLA ルーム)の有機的な運営 ①生徒指導委員会と教育相談委員会での議事・検討の充実を図り、組織的な生徒への支援とその見取り ②組織内の迅速な情報共有と、他機関との積極的かつ継続的な連携	①学校評価項目1・3に於いて、生徒・保護者による肯定的な回答が5%向上することができたか。 ②学習室運営における工夫。	①「原山中生は、夢や希望をもって学校生活を送っている。」「原山中生は、自分のよさを伸ばそうと努力している。」について、生徒1p増、保護者は3p増となった。 ②学習室開室2年目で、利用における決まりや環境の整備が整い、様々なケースで利用されている。	B	学校評価の結果より、生徒が夢や希望をもち、積極的に学校生活を送っている様子が伺える。今後とも生徒を主軸においた教育活動を行っている。学習室に関しては、利用者が増え、教員の負担増の解消が急務である。	
3	<b>【地域とともにある学校づくりに関する取組】</b> <現状> ○地域の自治会や青少年育成課、公民館等からの生徒ボランティアの依頼が増え、自主的に参加する生徒も増えてきた。 ○地域から好評の「七夕まつり」「クリスマスイルミネーション点灯式」を引き続き実施し、地域との交流を充実させていく。 <課題> ●学校からの情報発信不足。	・学校運営協議会を軸とした学校と地域連携の推進 ・学校HP、安心メールを活用した情報発信と教育活動参観の機会設定	①熟議の充実を図り地域、保護者と協働する学校づくりを行う。 ②ボランティア活動への積極的な参加を生徒へ促す。 ③計画的に地域と協働する機会を増やす ①学校ホームページを活用した情報発信の頻度を上げ、教育活動の周知 ②地域、保護者への授業参観等の機会を確保し、開かれた学校づくりの推進	①学校運営協議会への生徒の参加及び生徒からの発信があったか。 ②地域行事や募集が来ているボランティアへ生徒の有機的な参加があったか。 ③地域と協働する機会があったか。	①第1回では、生徒からの提案を行い、第2回において、その実践報告が行われた。 ②生徒のボランティアへの参加は増加し、今年度は、育成会開催の行事や区民祭り等への参加もあり、多岐にわたった。	A	学校運営協議会への生徒の提案は、地域と学校の繋がりをまた一歩前進させた。また、地域行事への生徒ボランティア参加も増え、企画の段階から参加させていただいた団体もあった。	
4	<b>【教育環境の整備に関する取組】</b> <現状> ○学校施設を安全できれいな環境づくりに努め、学習しやすい環境を保つよう教職員一同工夫を凝らしているが、経年劣化による施設の老朽化や校地内の樹木の巨木化が顕著である。 ○35人学級に向けた教室再配置等の整備。 <課題> ●計画的な修繕や樹木の剪定依頼。 ●粗大ごみの計画的な廃棄、スペースの有効活用。	・安心・安全な生活の実現に向けた校内外の整備と安全意識の向上	①長期的な視点に立った計画的な修繕 ②formsを活用した安全点検の確実な実施と素早い情報の共有 ③年度当初の校内巡り、引き渡し訓練実施による避難経路及び引き渡し場所等の確認、生徒の避難所運営訓練への参加	①毎学期の管理職による見回りと、教職員からのヒアリングを行い修繕の優先順位をつけているか。 ②毎月10日の安全点検の実施を通じて、施設の不具合の早期発見と早期修繕を実施できたか。 ③適切な指導を実施し、防災意識の向上に努めたか。	①定期的な見回りを通じて、雨漏り、校舎壁面、トイレの排水等の修繕、樹木の選定を行った。トイレ等水回りについては、継続して要望を出して行く。また、校舎内の空調関係の経年劣化が深刻で、エアコン洗浄に関して3年計画を立て、今年度は5階を行った。また、来年度より、クラス増が予想されるため、その準備計画を立てた。 ②安全点検を通じて、小破修理が確実に行われ、安心安全な教育環境が保持されている。 ③引き渡し訓練や避難経路確認を行い、生徒による共助訓練を実施し、防災意識の向上に努めた。今年度は、予告なしの避難訓練も実施した。	A	日々の細やかな点検や素早い対応、修繕のおかげで、安心・安全な教育環境が守られている。更なる充実を図るために、備品の整理・整頓を継続して実施し、利便性も高めていきたい。 施設の老朽化、設備の経年による劣化は、顕著であるが、配当予算だけではどうにもならない。35人学級に伴い、今後クラス数増も念頭に置き、継続して委員会に要望を上げていく。	
5	<b>【教職員のキャリア形成に関する取組】</b> <現状> ○自主研修の充実が見られた。それにより、生徒への教育活動や校務分掌の充実や有機的な取組が見られるようになった。 <課題> ●本校の実態に即した研修を効果的に実施し組織の力を向上させるためにも、計画的な研修計画が求められる。 ●旅費が不足している。	・職員が3「勤務してよかった原山中」と思える学校運営の実施	①これまでの研修履歴に基づく長期的な視点で行う個人研修の実施とその支援 ②学校課題に即した組織的な研修の実施と教職員の資質向上 ③ベテラン教員の経験知・実践知の形式化と若手教員への継承を行い、「働いてよかった原山中」という学校文化の醸成	①人事評価面談において評価履歴に基づく研修計画の立案とその実施、管理職による支援があったか。 ②探究的な学習についての校内研修を実施し、それぞれの授業に生かすことができたか。 ③学校評価項目25、26において教職員によるAの回答率をどちらも5%向上することができたか。	①今年度は、研修で学んだことを「まずやってみよう」と実践につなげるよう促し、年度途中での提案であってもAARサイクルのもと、積極的に支援した。 ②探究的な学習に関しては、校内研修を行い、次回の学習指導要領改定の方性を示し、更なる推進を促した。先生方の探究型の授業は、かなり浸透してきており、全国学調の生徒質問紙調査における肯定的な回答割合も、全国を20p以上上回っている。 ③25「原山中で働いてよかった」に関しては1p、26「ワークライフバランス」に関しては11p上昇した。	A	探究的な学習に関しては、教員が研修で得たことを楽しみながら実践している様子が見られ、生徒のAgencyにも大いに繋がったことが、全国学調の質問紙調査結果からわかる。今後は、生徒の変容や成果物等を外部に発信していくことによって、新たなフェーズにおいて学校全体の教育活動の向上に努めていく。また、旅費に関しては、給与課以外にも、教科団体等、多方向へアプローチし、確保する。	

目指す学校像	「通ってよかった、原山中！」と生徒が思える学校
--------	-------------------------

重点目標	1 基礎学力の習得と充実 学びの自律化と個別最適化 探究的な学びの推進 2 自己肯定感・自尊感情の高揚 生徒指導・教育相談体制の充実 迅速な情報共有と対応 3 体力・運動能力の向上 健康教育・安全教育・食育の推進 4 地域とともにある学校づくり 地域人材・企業との交流 積極的な情報発信 5 研修履歴に基づく教職員研修の充実 業務量管理・健康確保措置実施計画に沿った業務管理
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度		目標			年度評価		実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【学びの質の向上に関する取組】 <現状> ○全国学力・学習状況調査の質問紙調査や、市学習状況調査の国語・数学の結果とも全国、市平均と比べ高い。 ○手帳や計画表を用いた自立した学習者の育成を進めている。 <課題> ●自律的な学習については他に比べて肯定的な回答が低い傾向が見られる。 ●生徒の学力の二極化がみられる。 ●教科横断的な取組として、「カリマネデザインマップ」を作成中である。	・学びの自律化の促進 ・目的に応じてICTを効果的に活用した授業の工夫 ・探究的な学びの推進	① 学びの自律化・個別最適化 ・フォーサイト手帳やテスト計画表を活用した、生徒の自主的な学習への取組の推進 ・授業力向上を目的とした、全ての教員による年2回の公開授業の実施と管理職による授業参観の実施 ② 探究的な学びの推進 ・SDGsを軸としたカリマネデザインマップの作成と、教科横断的な視点を意識した探究的な学習活動の実践。	① ・学校評価「頑張ろうという積極的な意欲」の肯定的評価の向上 ・学習状況調査の結果の肯定的な回答の状況 ・全ての教員が年2回の公開授業を実施、また管理職による授業参観の実施をすることができたか。 ② カリマネデザインマップを活用して、教科を横断した探究的な学びを実施することができたか。 (教員学校評価「指導力向上・授業の工夫、改善」の肯定的評価の向上)					
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 <現状> ○全国学力・学力状況調査の質問紙調査から、生徒の自尊意識、自己肯定感は全国、市平均と比べ高い。 ○いじめや不登校に対して、学校全体で組織的・具体的に対応できるよう、支援体制を構築している。 <課題> ●教室外の場所での学習を希望する生徒が増加傾向にある。	・生涯にわたって充実した人生を送ることができる力(エージェンシー)の育成 ・生徒指導・教育相談体制の充実 ・迅速な情報共有と他機関との連携	① 共感的理解に基づく教育の実践と生徒の「非認知能力」の育成 ② 情報共有を密にした「誰一人取り残さない」教育の実践 ③ 「人間関係プログラム」や「命の支えあいの授業」の実践による自己肯定感・自尊感情の高揚 ① 「スクールダッシュボード」や「心と生活のアンケート」による生徒の状況の把握と迅速な対応 ② 専門職や専門機関との連携 ③ 学習室を活用した支援の構築	① 生徒・保護者・教職員学校評価「目指す生徒像」に係る項目の肯定的評価の向上 ② 専門職による教職員研修の実施。 ③ 「人間関係プログラム」「命の支えあいの授業」について確実に実施できたか。 ① 職員学校評価「いじめの早期発見」項目に関して肯定的評価の継続 ② 長期欠席の生徒の何らかの関係機関とのつながりが図れたか。 ③ 学習室の支援体制は図れたか。					
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 <現状> ○地域の自治会や青少年育成会、公民館等からの生徒ボランティアの依頼が増え、自主的に参加している。 ○地域から好評の「七まつり」「クリスマスイルミネーション点灯式」を引き続き実施し、地域との交流を充実させていく。 <課題> ●学校からの情報発信方法について方法を検討する。	・学校運営協議会を軸とした学校と地域の連携 ・原山中学校の教育活動について、さらなる情報発信の工夫	① 学校運営協議会における、生徒参加も含めた熟議と、学校課題の共有と解決。 ② 地域行事への積極的な参加と、子どもが主役となる「地域とともにあるコミュニティースクール」の実現。 ① スクリレの導入による、学校の情報の紙面とデータのハイブリットでの周知。 ② 創立80周年記念の行事をとおした、保護者・地域との協力・支援体制の充実。	① 年3回の学校運営協議会への生徒の参加ができたか。 ② 保護者学校評価「行事」「地域との連携」について、肯定的な評価の向上(昨年度79%) ③ 地域ボランティアや地域行事への参加率の向上 ① スクリレを導入し、学校だより・学年だより、その他の活動についての配信ができたか。 ② 創立80周年記念行事について実行委員会と協力体制を築き実施することができたか。					
4	【教育環境の整備に関する取組】 <現状> ○学校施設を安全できれいな環境づくりに努め、学習しやすい環境を保つよう教職員一同工夫を凝らしている。経年劣化による施設の老朽化や校地内の樹木の巨木化が顕著である。 ○35人学級に向けた教室再配置等の整備を実施した。 <課題> ●計画的な修繕や樹木の剪定依頼。	・「安心・安全」で隅々まで行き届いた質の高い教育環境の整備と安全意識の向上	① 毎日の校内巡視による安全点検と月一回の教職員による校内安全点検による確実な補修箇所確認と迅速な修理の徹底。 ② 清掃・緑化担当と連携した校内美化、緑化活動の実施。 ③ 竜巻訓練や不審者対応訓練、救急搬送訓練等、計画的、発展的な引き渡し訓練や避難訓練の実施。	① 確実な安全点検の実施ができたか。 ② 職員学校評価「安全できれいな環境づくり」の肯定的な評価の向上(昨年度83%) ③ 学校評価「清掃活動」の肯定的な評価の向上(昨年度61%) ④ 避難訓練等の際の講話を通して、防災意識を高めるように工夫できたか。					
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 <現状> ○自主研修に積極的に参加しており、そのことが生徒への教育活動や校務分掌の充実や有機的な取組につながっている。 <課題> ●計画的な校内研修の充実	・「働きがい」のある職場と人間性豊かな教員の育成	① 個々のキャリアと個性を生かした対話に基づく研修奨励の実施と、教職員の資質向上。 ② 学年主任を中心とした学年団の円滑な運営とコーチングの手法を生かした教員相互の学びあいの機会の確保。 ③ 「業務量の管理・健康確保措置実施計画」に沿った教職員の健康管理と教職員事故の防止。	① 人事評価面談を通して、見通しを持った研修奨励を実施することで個々の学びを促進することができたか。 ② 教職員が安心して仕事ができる環境を構築することができたか。 ③ 「業務の効率化」肯定的評価の向上(昨年61%)					

